（様式１－１）

令和５年度　学校評価報告書

大牟田市立　甘木中学校（ＮＯ１）

学校教育目標	確かな学力を身につけ、豊かな心主体的実践力を持ち、たくましく生きる生徒の育成	重点目標	①基礎的・基本的な知識や技能の習得 ②Ａ協力し目標を達成しようとする生徒 Ｂ取組の過程を振り返り、自分や他者のよさを認め合う生徒

	評価計画			自己評価		学校関係者評価		改善計画
	重点目標	目標達成のための方策（取組指標）	成果指標	評価	結果（成果○と課題△）	評価	コメント	次年度における改善策（案）
重点目標に関する評価	基礎的・基本的な知識・技能の習得 思考をうながす授業展開の工夫	「つかむ段階」で「なぜ」「わかりたい」「考えたい」を引き出す工夫 「つくる段階」で調べたり、考えたり、伝えたりする活動 「めあて」とそれに応じた「まとめ」を行い、自らの学習を「振り返る」活動 人事評価（自己評価）や校内研修を活用したＯＪＴによる授業力向上 スマイルノート（家庭学習）の充実・徹底 スマイルノートに授業の復習をしている	[生徒アンケート]　3.5 [教師アンケート]　3.2 [生徒アンケート]　3.5 [教師アンケート]　3.2 [生徒アンケート]　3.5 [教師アンケート]　3.3 [生徒アンケート] ○○科の授業がわかる生徒　3.5以上 [生徒アンケート] 家庭学習時間１時間未満の生徒の割合 30%以下	4 4 3 4 2	○３年生は、全国学力・学習状況調査において国語が６P上昇した。 ○授業において、ロイロノートや教育ソフトなどを積極的に活用し生徒のICT活用が進んできている。 ○数学では、少人数授業ができ、OJTによる授業力向上にもつながっている。 △わくわくするような導入の工夫や子どもが思考するような発問の工夫など継続して授業改善に取り組む。 △スマホを触っている時間が長く、読書量が少ない。 △各種学力調査の結果の分析や改善などを全職員で話す時間が十分とれていない。 △家庭学習の内容や取り組ませ方など課題が多い。	A A A A A	・自己評価は適切である。 ・全国学力･学習状況調査の結果は客観的で有効だと思う。国語の６Ｐ上昇はいい傾向である。 ・タブレットの授業やタブレットドリル等は、メリット･デメリットを確認して効果的に活用してほしい。 ・家庭学習時間１時間未満の生徒が増えているのが気になる。 ・家庭学習の時間も目安としてよいが、内容の濃さに視点を当てて取り組むことも大事である。 ・家庭学習とスマホの時間は、家庭でも悩むところであり､課題。 ・生徒にとって授業は大切な時間なので、同教科での少人数授業を増えればと思う。	・学力向上を目指して、校内の研究や研修を計画的に継続して取り組む。また、学習支援が必要な生徒に対しては、特別支援員や学習指導員と連携し、支援を行う。放課後の個別学習やアフタースクールの効果的な実施を目指す。 ・各種学力調査の結果を全職員で共有し分析を行い、具体的な取組について話し合う。 ・同教科による少人数習熟度別授業の実施を増やしたい。 ・自学ノートだけでなく、タブレットドリルを家庭学習に加える。また､自学ノートコンクールを行い、学習内容の質を上げる。 ・小学校への授業参観の方法を工夫し職員の参観率を上げる。
	自分や他者のよさがわかり、協力できる生徒	望ましい行動のモデルを示しつつ、自己決定ができる場面を設定する。 目標達成に向けて、仲間とともに取り組む場面を設定する 振り返る場面において、相互評価を行うとともに、努力やできたことを具体的に褒める	[生徒アンケート] 自分のよさがわかる生徒 3.2以上 [生徒アンケート] 他者のよさがわかる生徒 3.5以上 [生徒アンケート] 協力し合おうとする生徒 3.5以上	4 4 4	○合唱コンクール、体育会では、自分の役割や友だちのよさを見つけ、認め合い、支え合う姿が見られた。また、多くの保護者から子ども達の頑張りを認めていただくことができた。 △日常の授業で、積極的な生徒指導の機能を生かした授業づくりができていないところがある。	A A A	・自己評価は適切である。 ・保護者が学級に足を運び、子どもの成長を感じられる機会は、家庭学習の強化にもつながる。次年度も継続して取り組んでほしい。 ・合唱コンクールでの生徒達の真面目に取り組む姿に感動を受けた。主体的に活動できていた。	・合唱コンクールと体育会は、今年度の取組を継続し、生徒が主体的に活動できるよう積極的に支援していく。生徒達の頑張りをしっかり価値付けていく。 ・小中連携の教育活動を継続して進める。
	ＰＤＣＡにおける協働体制の推進	重点目標や達成のための手立ての共通理解・共通実践を行う ミドルリーダーが、重点目標達成に係る支援や助言を行う 年間で２サイクルを行い、各会議等で状況報告や改善の方策を審議し、評価改善を図る	[教師アンケート] 共通理解・共通実践ができている 3.0以上 [教師アンケート] 支援や援助ができている 3.0以上 [教師アンケート] 評価改善ができている 3.1以上	4 4 4	○各種委員会での取組指標、成果指標の検討や8月の評価と改善の研修会等から教職員の重点目標への意識の高まりが見られている。 △個人の取組まではまだ浸透しておらず、組織としては不十分である。	A A A	・自己評価は適切である。 ・教職員の若年化が進み、人材育成や意識の高揚は喫緊の課題である。参画意識が高まっているのはよい。 ・どの項目もアンケート結果の数値が、昨年より上がっている。教育活動のＰＤＣＡサイクルが定着し始めている。	・各種委員会で重点目標に向けて状況把握や各分掌の意見交流を活性化し機能化を図る。 ・主任･主事を担うミドルリーダーの積極的な研修参加を勧める。
いじめ防止	いじめを「しないさせない、見逃さない」指導体制の推進	いじめに関するアンケートを月に１回程度、実施して委員会で把握し、予防・指導する。 共感的な生徒指導を推進し、年３回の教育相談を行う いじめ防止対策委員会を定期的に開催し、全体で情報を共有し、迅速な支援を行う。	[生徒アンケート] いじめはいけないと回答する割合 3.9以上 [生徒アンケート] 相談できる教師がいる 3.2以上 いじめの認知件数の増加および解消 100%	4 4 4	○定期的なアンケート、教育相談の実施により、早期発見・早期対応ができた。 ○生徒や保護者からの訴えについては確認等も含め､早急に対応している。 △いじめの認知など、いじめに対する職員の見識を高め、学校全体でいじめを見逃さない風土をつくる。	A A A	・自己評価は適切である。 ・先生方が一丸となって､目配り、気配り、心配りしてあることがわかった。先生が子ども達と話をする時間が増えたのはよかった。 ・相談できる教師のポイントが上がっていることに、指導体制の推進がうかがえる。	・いじめを生まない学校づくりのために日常的な「目配り、気配り、心配り」を全職員で継続し、情報を共有する。 ・アンケート、教育相談を継続し、早期発見・早期対応努める。ＳＣ・ＳＳＷ、外部機関との連携を確実にする。
不登校防止	不登校生徒および不登校傾向生徒への個に応じた支援体制の充実	不登校を減らす基本対応「福岡アクション３」による不登校未然防止を徹底する。 生徒支援加配教員やＳＣ、ＳＳＷ等への相談の充実を図り､保護者や生徒を支援する。 生徒指導委員会で報告し、全体で情報を共有して、指導や支援に生かす。	不登校生徒の出現率 9%以下 不登校兆候および不登校傾向生徒の減少 6%以下 [生徒アンケート] 学校が楽しいと感じる生徒 3.2以上 [教師アンケート] 気になる生徒の情報共有を進んで行っている　3.6以上	4 3 4	○保健室登校・昭和教室登校の生徒が教室登校になった。また、担任だけでなく支援加配教員やSC、養護教諭等の関わりで保健室登校ができるようになった生徒も増えた。 ○ＳＣとの連携が図られている。 △様々な理由から特に1年生の不登校や兆候生徒の数が増加している。 ○不登校の保護者同士をつなぐ座談会を開くことができた。	A A A	・自己評価は適切である。 ・生徒だけでなく保護者も悩みやストレスを抱えていると思う。保護者を孤立させない取組の座談会は、ちょっとしたヒントをもらえ目の前が明るくなるような感じがする｡よい取組である。 ・保健室登校の生徒へ対する養護教諭の関わり方がとても上手である。	・「ふくおかアクション３」を全職員で継続して取り組む。 ・不登校対策コーディネーター、養護教諭、特別支援コーディネーター、ＳＣ、ＳＳＷなどと情報を共有しながら、状況改善を図る。 ・個に応じた学習の場を確実に提供する。 ・「マンツーマン方式」で対応する。
働き方改革	本市の働き方改職場環境の充実	定時退校日を水曜日に設定する。 部活動休養日を水曜日、土日１回以上設定する。 効率的な会議運営を行う	年間の総超過勤務時数 [教師アンケート] 効率的、効果的な会議となっている 3.0以上	4 4	△学校行事がある月は、超過勤務時間が増えている。 ○水曜日の午後は、学級のことや教材研究など落ち着いてできている。また、早く帰宅する職員も増えた。	A A	・自己評価は適切である。 ・水曜日の午後の取組や部活動休養日の設定が超過勤務時間の削減に表れている。 ・地域と連携しながら少しでも働き方改革になればと思う。	・働き方改革チェックシートを活用し、業務改善に取り組む。 ・各種委員会で十分協議し職員会議に提案する。

◇　評価について　・【自　己　評　価】　４：目標達成（９０%以上）　３：ほぼ達成（７０%～９０%）　２：もう少し（６０%～７０%）　１：できていない（６０%未満）

・【学校関係者評価】　Ａ：自己評価は適切である　Ｂ：自己評価は上方修正すべきである　Ｃ：自己評価は下方修正すべきである

・成果指標の(　　)数値は5月→12月実施アンケート